平成 24 年度　第２回横須賀市まちづくり評価委員会会議　会議概要

■日　　時　　平成 24 年７月 30 日（月）15:00～17:00
■場　　所　　市役所１号館３階会議室Ａ
■出 席 者　　【委員】
細野委員長、松本委員長職務代理者、石坂委員、大武委員、葛委員、
川名委員、木村委員、佐々木委員（代理 市原氏）、西原委員、山本委員
（委員は 50 音順）
【事務局】
福本政策推進部長、松田政策担当課長、宮川主査、鈴木
■傍 聴 者　　なし
■資　　料　　・資料１　横須賀市まちづくり評価委員会の概要
・資料２　横須賀市基本計画重点プログラム関連資料
・資料３　基本計画重点プログラム市民アンケート結果（評価委員会版）
・資料３追加資料　基本計画重点プログラム市民アンケート結果（追加資料）
・資料４　基本計画重点プロジェクトの目標と重点事業の実施状況
・参考資料　基本計画重点プログラム評価結果報告書（平成 23 年度版）
・横須賀市基本計画（2011～2021）
・横須賀市実施計画　平成 23 年度（2011 年度）～平成 25 年度（2013 年度）

■議事内容　　１．辞令交付、自己紹介
２．追加資料等について
３．プログラムごとの検討
（１）重点プログラム３　『環境を守る』
～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～
（２）重点プログラム４　『にぎわいを生む』
～地域経済の活性化と雇用の創出・
集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～
４．前回会議での検討内容について

概　　要

15:00　開　会

１．辞令交付、自己紹介

政策担当課長から木村委員、西原委員に辞令書を交付し、両委員が自己紹介を行った。

２．追加資料等について

事務局から、資料３の訂正と追加資料についての説明を行った。

併せて、前回会議で大武委員から指摘のあった「ハウジングプラザ駐車場車止めの色」について、対応状況を報告した。

（事務局：松田政策担当課長）

・現地は、平成町の海の側に新規オープンし、機械式のゲートで約 80 台分のスペースがあり、全体的に青色のイメージで統一されているが、灰色のアスファルトにスカイブルーの車止めという組み合わせで色弱の方には見えづらいと言える。

・民間事業者の設置であるが、横須賀市の港湾部が土地を所有して事業者に賃貸をしており、早速、状況について港湾部が事業者と協議をしたところ、事業者側から「住宅産業でバリアフリーを目指すものを販売するという姿勢の割には配慮が足りなかった。対応策を近日中に示したい。」との話があったとのことである。

・色彩の配慮については、神奈川県で「色使いのガイドライン」が示されている。公共施設、公共的な利用がなされる施設について、今後、カラーバリアフリーの考え方の周知方法、徹底させる指導を今後検討していく必要があると考えている。

３．プログラムごとの検討

（１）重点プログラム３　「環境を守る」
～人と自然が共生するまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～

事務局から、アンケート結果などについて説明を行った。

・プログラム全体は、昨年とほぼ同じ数値、傾向で良好な状況

・各取り組みの方向性は、「人と自然が共生するまちづくり」は若干左寄りながら昨年度と同様の結果、「地球環境に貢献するまちづくり」はよい方向に移動

・「人と自然が共生するまちづくり」の主な回答理由
良…本市の自然環境の良さ、市の取り組みが進んでいる
悪…宅地造成、開発による自然破壊

・「人と自然が共生するまちづくり」の地域別傾向
現在、以前との比較のいずれも、追浜・田浦、衣笠地域があまりよくないが、大津・浦賀、西地域がよく、特に大津・浦賀地域は大きく改善傾向

・「地球環境に貢献するまちづくり」の主な回答理由
良…ゴミの分別、リサイクルの徹底、市の取り組みが進んでいる

悪…市が何に取り組んでいるのか分からない、内容が不十分、宅地造成、開発による自然破壊

・「地球環境に貢献するまちづくり」の年齢別傾向
30 代以下があまりよくない

（石坂委員）
・p51 の回答理由にある原子力関係施設とは何か。

（事務局：宮川主査）
・直接的な原子力関係施設ではないが、燃料関係の工場である久里浜のＧＮＦという企業を指していると思われる。

（大武委員）
・回答理由を見ると、総論的にはよいが、各論的には具体的な事象が表出している。東日本大震災以降の災害対策ということで、崖地崩落防止施策が進んでいるのは悪いことではないが、コンクリートが目立っている。環境への配慮という視点で考えると、緑の植生など気配りが必要ではないか。
・公園が横須賀市にはたくさんあるが、観音崎の公園がバーベキュー場になってしまっている。政策的にそのように進めている印象があるが、せっかく燈台、磯、砂浜があるのに、観光や自然を求めて行く人は行きづらくなってしまう。にぎわいを求める場所について整理する必要があると思う。

（松本委員長職務代理者）
・資料４の p17 上段で、緑が多いというのは昨年から評価は高いが、実際には自然を増やす、減らさない、ということは難しいのだろうと思う。しかし、市民一人あたりの公園面積は少し増えているが、自然が減っていると心配している意見があるということは、保全対策、施策は積極的に行っていかないと難しいのだろう。
・指定面積が変わらないというのは、昨年度の資料を見ると神奈川県の計画とバッティングしてうまくいかないという記載があるが、そうであれば何か別の手立てを考える必要がある。指定にこだわらない方法、例えばナショナルトラストなど市民の協力をいただいて行う方法などにも取り組んでいく必要があると思う。評価がプラスである以上、大事にしていかなければいけないし、その辺りが少々心配である。
・ごみの総排出量は減ってきているが、市民の方々の努力によるものなのか、人口減少分が減っただけなのか分からないが、もう少し削減努力は必要だろうと思う。家庭ごみの割合が大きいだろうし、精査のうえ市民に協力をいただいて努力してほしい。市民参加が必要な政策だと思う。
・資料からは読み取れないが、横須賀市では再生エネルギーや CO_2削減の積極的な対策などはあるのか。基本計画を策定された時は、話し合われたけども必要とはいったもののまだ積極的な施策レベルではなかった。横須賀にはリソースがありそうだし、雇用にもつながる可能性がありそうだが。

（事務局：宮川主査）
・市民を巻き込んだ保全としては、「民有地緑化支援制度」を設けて見える緑を増やしてい

く取り組みを、従前から実施していた制度の仕組みを変えて、今年から新たに開始している。
・ごみに関しては、きちんと分別等をしているという市民の意識はあるので、総量をどのように減らしていくか今後の課題である。
・地球温暖化については、基本計画に合わせて、昨年度に地球温暖化対策の実行計画を策定している。積極的に推進していこうという動きがあるので、今後、具体的な取り組みは増えていくと思う。

（松本委員長職務代理者）
・先ほどの崖地対策について、緑化の気持ちはあるのだろうと思うが、計画はあってもすぐには緑にはならない。

（事務局：宮川主査）
・基本計画書の p92 の写真など、急傾斜地の工事が実施されていて、緑がなくなっている雰囲気はあるがこれから緑が上がってくるはずである。

（大武委員）
・これは神奈川県のエコ対策事業費の相当分を使っているだろう。横須賀以外の地域ではこのような工事は見かけない。

（松本委員長職務代理者）
・横浜の一部と横須賀ぐらいだろう。

（事務局：宮川主査）
・県もそうだが市でも補助をして小さい法面の工事もやっている。

（大武委員）
・工事をしていて、むき出しのところが結構ある。横須賀市全体として、丘陵地域という土地柄、この 40～50 年山を削って宅地にしてきた。たまたま横の法（のり）が緑で残っている。そういうことが生活環境など色々なところに影響している。日本で一番トンネルも多い。

（細野委員長）
・安全安心のこと、緑のこと、人口を増やすことなど、どうしても考えがぶつかってしまう。空き家率はどの程度かわかるか。

（事務局：宮川主査）
・直近値は 12%程度で、年々少しずつ上がっている。

（細野委員長）
・空き家をリニューアルして新しい人を居住させることなどを考えれば、開発と保全とのトレードオフもある程度は防げるのではないか。湘南国際村などの未利用地をどうするかなども考えなければいけない。

（川名委員）

・マンションを含めた空き家について、汐入の谷戸の空き家は、取り壊しの一部補助など積極的に動いていただいているが、ハイランドなどは、今は高齢の方が子育てをしている頃に開発された土地で、家をそのままにして他所にいる家族の方と同居する傾向が大きくなって逸見に似てきている。地域によっては安価になっているのに売れない土地があるので、そのような場所を環境保全のために寄附してもらって緑に還すというのはいかがか。久里浜の農園だった土地を譲渡して公園になったという事例もある。

・人口増加のために若い世代をターゲットとしてマンションを建設しているが、行く行くは汐入やハイランドのように空き家になる可能性があるので、それを見据えたうえで施策を考えていただきたい。

・ごみ対策について、ごみの分別が分からない独居高齢者の方がご近所とトラブルになっている。高齢化が進むにつれて他の場面でも問題が急激に表出してくると思われるので、それらを洗い出して方策を講じていく必要があるだろう。

（細野委員長）

・その辺りについて、西原さんはいかがか。

（西原委員）

・横須賀市の悩みは人口減少であり、それは経済など他の問題にもなる。横須賀市は自然が豊かであるが、人を呼ぶためにある程度は自然を犠牲にしなければならない。山の方の地域の方が下りて来て、移動はあるが横須賀市の人口は減ってきている。不思議なことに、マンションが建つ度に人は減っている。市の発展のためには、ある程度の自然破壊は仕方がないと思っていたが、多くの方が、以前と比較して自然がなくなっていると感じられている。馬堀海岸は海水浴場などが、住宅地になったが、破壊はしているものの、きれいなまちを創ることによって人工的な緑化をしている。海辺にもヤシなどを植えている。横須賀市をよくするためにはまずは人口減少を止めたい。また、人口が少なくても、人を呼びこみたいので、観光に力を入れていくことが大切と思う。人工的な緑化は進められるので、それぞれの家庭、まちをきれいにして、植樹して、自然の緑は難しくても人工的な緑は増やしたいと感じている。

（木村委員）

・毎朝晩の犬の散歩で中央公園に行くが、猿島や小原台など私の目からはたくさんの自然が見えて、横須賀は自然が多くてよいな、と思う。しかし一歩下がってみると、谷戸地区などの問題もある。法面の網の目のコンクリートなどには、種を吹き付けての緑化などもできるが、そういった乾いた自然ではなく、生の自然が欲しい。横須賀市の一部地域にはまだ蛍が生息している。そういう生の自然を大切にして生かして欲しい。西原委員のお話にあった馬堀海岸の宅地造成もやむを得ないとは思うが、今は各家庭に緑が成長している。そのように小さいところから一人一人が生の自然を大事にして、マンションであってもゴーヤの植栽などができる。

・朝方のカラスによるごみの散乱や、タバコのポイ捨ては目立つ。千代田区などは罰金があって、看板なども増えており、実際にたばこなど落ちていない。そういった強制力も必要なのではないか。

・成田のお祭りに行ったが、参道を歩く際に、ＪＴがごみ袋とごみ挟みを渡してくれた。自分で出したごみの他、気持ちがあればポイ捨てされたごみも拾うことができ、帰りに

回収してくれる。横須賀市でも、企業と提携しての環境美化もできるし、横須賀は自然環境がウリですから協力してください、というＰＲにもつながると思う。

（細野委員長）
・産官連携も必要かもしれない。環境教育については、横須賀市はどのようなことをやっているのか。

（山本委員）
・小学生の子どもが親のポイ捨てを見て注意したことがあった。教育の大切さを実感する。学校で環境教育が入ってきて色々な教科でも扱われている。環境がいかに大切か、子どもたちが切実に感じてくれている。
・朝、小学校の校門のところに、タバコの吸い殻がある。子どもたちが通学している中、タバコを吸いながら、パンを食べながら通勤している人がいる。大人がそういう見本を見せて欲しくない。せめてスクールタイムは遠慮して欲しい。喫煙を否定しているのではなく、マナーとして子どもたちの前でそのような姿を見せるのはよくない。地域の方々も拾ってくれて意識はあるが、捨てる人の意識がないように思う。表示板もあるが効果はない。環境教育も大切だが、身近な大人が手本を見せるのが一番よい教育ではないだろうか。

（細野委員長）
・他の市町村では条例などで喫煙禁止区域を設けている。横須賀市は検討しないのか。

（事務局：宮川主査）
・「ポイ捨て防止および環境美化を推進する条例」が既にある。

（西原委員）
・ポイ捨てについて罰金等は設定されていない。罰金を規定すれば減ると思うが、市の負担は増えてしまう。罰金がなくても少なくなるように取り組んではいて、ゴミの量は確実に減ってはいる。犯罪と同じでゼロにはならないが、子どもたちから意識を高めていきたいと考えている。クリーンよこすかを 30 年続けていて、まだこの程度かと思うこともあるが、少しずつ改善されていけばよいのかと思っている。

（大武委員）
・横須賀市でも駐車禁止地域に駐車している場合はチェックしている。そのように巡視する方に機能を担っていただくなど、一つの場所で徹底的にやると自然と減ってくる。管轄が異なるからできる、できないはあるだろうが、そのような取り組みも一つの方法かと思う。

（細野委員長）
・お若い委員の意見はいかがか。

（石坂委員）
・環境破壊はいけないという認識を誰もが持っている中で、開発と保全など難しい問題だと改めて感じた。保全という考え方は当たり前であるし、開発も自分たちの生活向上と

いう利益があるのでそちらも大切なことだと思うが、行政や企業が一方的に決めるのではなく、市民がどの程度参加できるのかが問題だと思った。

（葛委員）
・久里浜海岸の近くは、以前は注射器などが落ちていて汚かったが、自衛隊の方が定期的に清掃していて、今の砂浜はとてもきれいである。そういう面では改善されているのではないか。ポイ捨ては大人が示していかないといけない問題だと思う。

（大武委員）
・p58 を見ると、若い世代では環境についての進展が見受けられない結果だが、CO_2やごみの問題がどのように結びついているのか、生活の中でどのように影響するのかを定期的に広報紙などで啓発するなどの施策がほしい。非常に分かりづらい分野である。

（山本委員）
・p47 の回答理由で、「街路樹の伐採」がある。身近な自然環境ということで街路樹は癒されると思うし、「人間性豊かな子どもの育成」の中でも、街路樹は身近に感じられる生の自然としてよいと思っているが、その「育成のなさ」とはどのようなことなのか。

（事務局：宮川主査）
・伐採はするが植樹や植苗がなされていないということと、老木がそのまま放置されているような点への指摘だと思う。

（細野委員長）
・リノベーションがなされていないということだろう。街並みも観光資源なので、少し考える必要があるかもしれない。

（山本委員）
・街路樹の植樹はどこで考えているのか。自宅近くのイチョウの木は紅葉してこれからきれいになるという時に伐採されてしまった。歩道が狭いから伐採されたのだと思うが、敢えて大きいイチョウの木にしなくても歩道の幅に合う木を植樹すればよいと思う。

（事務局：宮川主査）
・排気ガスに強いなど何か理由があるのかもしれないが把握していない。恐らく道路管理者が決めているのだろうが、詳しくは分からない。

（川名委員）
・以前、京急では街のごみを改札に持ってきたら引き取ってくださっていた。ごみを拾っても今は街中にごみ箱がないので捨てる場所がなく、分かっていても拾わない人がいると思う。その隙間を埋めてくださっているのが京急でありがたいのだが、多くのごみを持ってこられても困るだろうし、周知されていない。幼稚園入園前頃の小さい子どもは結構ごみを拾うのだが、親が捨てる場所が分からないものだから元に戻してしまう。取り組みが分かればまた違った展開が見られるだろうし、京急の負担は増えるだろうが、アピールしていただけるとありがたいと思う。

（佐々木委員代理　市原氏）

・大きく周知させるとごみがどんどん駅に持ってこられて、そもそも論になってしまう。駅自体のごみ箱の数も減っていて、処理の問題などもあるので、昔に比べたらごみ箱は置けていない。

・タバコのポイ捨てについては、一番吸いたくなるのは帰路で、以前は駅前などに灰皿が置かれていたが世の中の流れで禁煙地域が増えていて、駅自体も京急は完全禁煙にしているために吸う場所がない。そうすると帰り道の誰もいない時に吸ってしまうということがあるのではないか。

・禁煙地域を指定する時にどのように決められているのか知りたい。見栄えはよくないが一番吸われるであろうニーズの高い場所には喫煙所を設けて喫煙者を集めるなど、周知して欲しい。バス停などにも勝手に灰皿が設置されてしまうことがあって、京急では喫煙可能スペースを勝手につくるのか、などと言われることがある。喫煙率は減っているので仕方ないかもしれないが、吸うのであればここで、というように周知すればポイ捨ても減るのではないか。

（２）重点プログラム４　「にぎわいを生む」
～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～

事務局から、アンケート結果などについて説明を行った。

・最も厳しい状況にあるプログラムであり、現在、以前との比較においてもよくない昨年度と比較してやや左下に移動しており、評価が得られていない

・取り組みの方向性は、「地域経済の活性化と雇用の創出」は若干右上方向への動きがみられるが依然として」左下の象限で厳しい状況にあり、「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」も左下がりで悪化している

・「地域経済の活性化と雇用の創出」の主な回答理由
良…地産地消の取り組み、企業立地、イベントや観光事業の充実、メディアでの取り上げなどの集客関係の充実
悪…働く場がない、商店街の店舗の減少、人口減少、買い物客の流出といった商業を中心として地域経済の衰退

・「地域経済の活性化と雇用の創出」の職業別傾向
自営業等が大きく後退

・「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」の主な回答理由
良…イベント、市の定住の取り組みの充実、住みやすさ、利便性、自然環境の良さ
悪…利便性の低下、商業施設の減少、人口減少

・「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」の年齢別傾向
30 代という特に定住して欲しい世代が低下

（細野委員長）

・お若い委員の方は横須賀で買い物をしているか。

（石坂委員）

・買い物に関しては横須賀ではしていない。大学が吉祥寺にあるため、そこで済ませてい

る。吉祥寺には駅前にショッピングモールや飲食店があり何でも揃うが、横須賀では全ては賄えないという不便さを感じる。横須賀では食料品以外は買わない。しかし、観光面で考えると、横須賀は自然が豊かなので、友人を誘っての海水浴やバーベキューなどをすると好印象を持たれる。

（細野委員長）
・吉祥寺で遊ぶ時と横須賀で遊ぶ時の客単価はどの位の違いがあるか。昼食時の価格の違いなどは。

（石坂委員）
・学生なので安さ重視で選ぶので、違いは分からない。

（細野委員長）
・吉祥寺は大型店依存ではなく個店依存である。横須賀市は大型店がなくなっているので端境期かもしれないが、個店中心でいかないといけないかもしれない。その時、吉祥寺の在り方は参考になると思う。なぜ吉祥寺はあれだけ魅力的なのか、その魅力を横須賀市に当てはめると何が足りないのか、何が欠落しているのか。

（石坂委員）
・吉祥寺では、大学に行くのに必ず商店街を通らなければならない。しかし、横須賀市では、例えば県立大学の生徒が駅前の商店街を通るとか、乗り換えた時に横須賀中央の商店街を利用するとかはない。そのようなことが両者の違いとして挙げられると思う。

（葛委員）
・私も日用品以外は横須賀では買わない。

（細野委員長）
・横須賀市ではデパート、スーパー、ブランドショップなどをフルセットで持つのは非現実的だろう。アンケートの回答ではそのようなものが欲しいといっているが無視してよい、そのようなものは東京や横浜へ行けばよい。では、横須賀での利便性というのは、どのような形にすれば出てくるのだろうか。いつか家庭を持って、仮に横須賀に住もうという時には、どのような利便性を求められるか。

（石坂委員）
・まず大事なのは、勤務先を東京と仮定すると、住居は駅から近いことと、働いてストレスがたまる中で休日に自然環境を通してどのくらいリフレッシュができるのかを重視する。

（川名委員）
・石坂委員のお話を聞いて閃いたが、下が店舗、上がマンションになるさいか屋の跡地なら駅からも近いし住んでもらえると思う。
・今、辻堂や茅ヶ崎に人口が流れているが、その理由は大型ショッピングモールである。それらの地域との差別化を図るとすれば、若い方が欲しているショッピングモールはやはり無理なので、切り捨てるものは切り捨てていく。横須賀中央に住んだ時には、観音

崎や自然が近くにあることと、国際色である。子どもを産み育てる時に重視するのは教育と環境なので、例えば国際都市の面を大きく打ち出して、イマージョン教育は少し難しいかもしれないが神田外語大が行っているブリティッシュヒルズのような、街中で英語を使って生活できる、という方向性もあるのではないか。

・子どもの教育において、“のびのび”という舞台設定は、自然が豊富であり整っているので、週末をリフレッシュして楽しむという点では、例えば美術館のアクアマーレなど友人が感激する。よい景色があり、一食あたりの単価が都内では 1.5 倍ぐらいするうえに、三浦産の野菜なども 7 割ぐらいで食べられる。他を真似しないで、国としてはスイスのイメージを目指したらよいのではないか。

（大武委員）

・色々な施策があるが、横須賀は薄く広くというか重点化がされていない印象を受ける。工業的なのか、商業的なのか、観光的なのか、施策がはっきりしていない状況で、横須賀は政策的に散財している。企業や商業施設を誘致すると既存店は廃れていく。商店街の活性化も 30 年以上の課題であるが成功例がない。商店主が年を重ね、若い店員がいない。横須賀に何故行くのか、視点を定める必要がある。横須賀といえば軍港を生かすということもある。

・観光としても、横須賀中央に出ても京急の駅には案内が何もない。役所屋にも観光を案内するものがない。観光案内を行う場所も駅から遠い目立たない場所にあり、そのようなところから改める必要がある。観光ボランティアをもっと有意義なものにして活用すべきである。市役所にしても、商業観光課ではなく観光部にするなりして責任を明確にするとよい。

・人に投資すべきである。中小企業の活性化とあるが、その技術を何に生かすか、経営者がどう見るか、どう乗り切るかという事業戦略を立案できるよう、経営者の能力向上に投資すべきである。

（細野委員長）

・東京都のある市にはシティセールス課がある。p78 の回答理由を見ると「魅力がない」のオンパレードであるが、お若い方が考える魅力とは何だろうか。

（石坂委員）

・横須賀市に即していうと、アメリカの文化だろうか。

（葛委員）

・私は魅力がないとは思っていないし、横須賀に回答理由にあるような服や靴などを買うことも求めていない。

（木村委員）

・横須賀にデートスポットはあるか。

（葛委員）

・観音崎や三笠公園などがある。

（細野委員長）
・魅力がないとは考えていないということであれば、逆に、何が魅力だといえるか。

（葛委員）
・海が見える、猿島が見える風景は横須賀らしくて落ち着く。ドブ板通りなどもよい。横浜の中心などと比べると、魅力の種類が違うと思う。マイナスの回答理由には共感できるものがない。

（細野委員長）
・では、葛委員はアンケートにはどのように答えるか。

（葛委員）
・「よくなっている」と答える。理由としては、イベントが増えてきたことが挙げられる。カレーフェスティバルやお祭りなど多く、その周知も、昔と比べてツイッターを利用するなどで図られていて、情報が入ってくる。京急の車内広告も地域密着のものが増えていて、企業との協力もできているのでよくなっていると感じている。

（細野委員長）
・イベントなどは点にとどまって線につながっていない。つまり、客はたくさん来るが、お金を落としていってはくれないということについてはどう思うか。

（木村委員）
・お客さんが横須賀市内を循環してくれない。カレーフェスティバルにしても、会場と、ベースを覗いて汐入までで、上町の商店街などでイベントをしても上がってきてくれない。イベントは色々なところで増えてきているが、継続して循環できていない。動線を確保できない。
・先ほど吉祥寺の話が出たが、私も吉祥寺で満足するだろう。商店街もあるし、色々楽しめ、飲食店もあり、お洒落である。吉祥寺は平地だが、横須賀市は平地ではなく少し歩けば海や坂道である。吉祥寺のように駅を中心として放射線状に展開することはできない。吉祥寺は客層が若い人たちである。横須賀市は一つ一つを見るとよい街だと思うが、建物の老朽化、商店主の高齢化などの問題がある。空き店舗を若い人が工夫してシャッターを開けつつあるが、資金不足で居抜きで商売を始めている。その辺りもやはり吉祥寺のカフェなどとは違う。
・東京のマンションは横須賀市と違い、周辺にコンビニ、食堂、病院、幼稚園、保育所など、マンションから出なくても生活できるほど施設が充実している。横須賀市出身で YRP に通勤している人が、便利だからと横浜に住んでいる。横須賀に住むには、家庭を持った時に保育所がない、配偶者の働く場所がないという問題があり、職住近接が望ましいが難しいという現状があるようだ。

（西原委員）
・横須賀市にはやはり地形的な問題があり、平地がない、行き止まりなど、東京、横浜へ１時間もかけずに行けるのだが不便である。
・横須賀市に観光に来ても滞在時間が短い。１カ所を見て買い物も十分にしないで帰ってしまう。観光バスの停まる場所が不十分、宿泊したくてもホテルがない。人が来ないと

ホテルも営業できないというイタチごっこである。観光バスが停まる駐車場の確保もできていない。空母をホテル化するプランはまだ生きているが、いつでも課題になるのは、人を呼んでも泊る場所がない、駐車場がないということであり、それでは人は来ない。それらが揃えば、横須賀市で一泊して、楽しんで、お金を落としてくれるのではないか。日帰りでは時間がなくお客さんが循環しない。横須賀を元気にしたいという思いはあり、素材はよい、お土産もよいものがある、美味しい食材もあるのに結びついていかない。

（細野委員長）

・商店街は、吉祥寺のように200mもいらない。谷中銀座のように50mあるかどうかのこぢんまりとした商店街でも、レトロな雰囲気があるから休日は混んでいる。個性的な商店街づくりなどを行い、物販ばかりではなく、時間を消費したり知識をつけたりなど先ほどの神田外語大のブリティッシュヒルズのように、滞留時間をどうしたら増やしていけるか考える必要がある。

（大武委員）

・話の流れからすると、今後は観光政策となる。工業生産系は、横須賀は半島であるため物流の面から難しい。駐車場を無料化してその分は街で買い物をしてもらう。
・人に投資することを積極的に行った方がよい。例えば横須賀市の市職員や地域の一般企業の社員の若年層を積極的に海外へ出すことで、色々なノウハウや経験を得られる。一般企業でも新入社員教育を海外でやるところが増えており、時間はかかるが一つの方法である。色々な情報や知識は足で稼ぐ必要がある。ボランティア休暇があるので、半年の間は地域でボランティア活動をして地域の生活を肌で感じるなど、人材育成に投資することも大事だと思う。

（細野委員長）

・アメリカでは移動が多いので、ボックスサービスというものがある。学校の場所、スクールバスが通る時間、野菜を買える場所、ショッピングセンターの場所などが書かれている便利帳のようなものをくれる。職員が半年でも住んで行政サービスを学ぶなど、実地で体験するような投資も必要かもしれない。

（川名委員）

・先ほど木村委員から、マンションから一歩も出ないで生活できるというご意見があったが、横須賀市の米海軍基地内のアメリカ人もそのような状況である。彼らがどのような時に街中へ出るのかを考えると、観光客を呼び込めるのではないかと思う。３年任期の中で一度もゲートを出たことがないという人もいる。街中へ出ている理由は、人と交流がしたい、美味しいものが食べたいという２点が挙げられる。そのような時に口コミで作られた外人ガイドが役に立っている。観光客を呼び込むには、委員長ご指摘のようにまず案内版が必要である。例えば茅ヶ崎などは、駅を出てすぐ案内所があり、お土産も売っている。横須賀中央駅のキヨスクだった所をガイドにしてはどうか。外から来た方にはＹＹポートは遠すぎるので、道に矢印で示すなどの工夫が必要である。
・観光客を街に馴染ませることとお祭りも大事であると思う。谷中には、稼働率95%以上の外国人専門の宿がある。稼働率が高い理由は人々の温かさである。スイスやオーストラリアは観光客のお陰で生きていけるという意識があるので観光客に非常に優しい。横須賀市民全員に、観光客をお迎えする気持ちが必要である。また、お祭りをすると絆が

できるので色々な世代の方々が顔見知りになれる。
・それぞれ新しいものを打ち出さなければならないと思う。今のカレーやネイビーバーガー、チーズケーキに頼りきりではいけない。渋谷にボルツというカレー店があったが流行っている時に閉店した。流行ものは大体10年までで、とことんまでいってしまうと次がないのでその前にお終いにして新しいものを考えるということだった。横須賀も新しいものを考える必要がある。

（木村委員）
・昼間の食事もそうだが、夜まで居てもらわないと見えない。「横須賀ブラジャー」というブランデーとジンジャーエールを割ったご当地カクテルがある。そういうものもＰＲできるのではないか。昼のイベントが終わって夜まで居てもらえれば、滞在にもつながる。

（川名委員）
・ネーミングは非常に重要である。猿島の「無人島」というネーミングに若者は魅力を感じているようだ。

（石坂委員）
・横須賀は米軍基地に即した観光やＰＲを行ってきたと思うが、それは、沖縄のように市民に大きなショックを与える出来事がなかったからだと考えている。今後も仲良くよい関係を続けていく中で、危険が起こった時に、鈍くなってしまって気付けない恐れもあると思う。仲良くしていくことは非常に大切だが、一方で一定の緊張感も組織として持つ必要があるように思う。
・基地に依存している面があるので、それ以外にも独自の価値を出していかなくてはならないと思う。

（細野委員長）
・横須賀市の姉妹都市はどこか。

（事務局：福本政策推進部長）
・アメリカのコーパスクリスティ、イギリスのメッドウェイ、フランスのブレスト、オーストラリアのフリマントルである。

（細野委員長）
・そこは横須賀市と同じ軍港のようなところだったりするのか。

（事務局：福本政策推進部長）
・港湾産業都市である。海の近くである。

（細野委員長）
・サンディエゴも軍港だが、カラフルなショッピングセンターがある。そこがカリフォルニアの若者のファッションの拠点になっていて、そのようなことも真似できるかもしれない。どこにでもリスクはあるので、横田基地もそうだが、仲良くするということは大事で、交流がないと逆に恐れが出てくるし、リスクの可能性もあるが国際交流の拠点としてもっと活用することも大事である。軍港というと暗いイメージを持たれるが、サン

ディエゴなどはカラフルで明るい。イメージを変えるぐらいの取り組みが必要である。

（木村委員）

・軍港は横須賀市民の雇用の場でもある。そういう意味ではもっと平和で、家族を養う場であるとも考えられる。働いている人たちも原子力潜水艦を見て危機感を持って働いていると聞いているが、そのような人たちも中に入ればフレンドリーに働いている。地域経済の活性化、雇用もにぎわいの一部で、子どもが増えないとまちはにぎやかにならない。イベントでのにぎやかさではなく、子どもが泣いていたり、近所を歩いていたりという姿がにぎわいのイメージだと捉えている。

４．前回会議での検討内容について

（細野委員長）

・前回、プログラム１であまり議論できなかった産科、小児科等について検討したい。若い人たちが安心して住んで子育てできるようにするためには、医療体制もそうだし学校教育も要であるので集中的に検討したい。

（大武委員）

・横須賀市は軍の関係で総合病院が比較的多いが、アクセスのよい所を中心に立地していて西地区は少ない。高齢者、障害者を専門的に診てくれる役割を持った病院は少ないので整備されるとよい。

（細野委員長）

・国の成長戦略で、医療と農林水産が入っていた。大事な話である。

（松本委員長職務代理者）

・水を差すようだが、日本中の人口が減っていく中で、横須賀市だけ子どもが増えることはまずない。過去のにぎわいと質の違うにぎわいを考えなければならない時代である。昔と同じように、人がわいわい居る銀座や渋谷のようなにぎわいを考えていても意味がないし、質の違うにぎわいとは何かと考えると、今あるものを住んでいる方たちが生かしていくことで、地産地消は評価されているし、地元での雇用も考えられる。
・大学生を見ていると、地元の企業で働きたい人が増えていて、名の通った大企業に就職して世界に飛び出していくような時代ではないということを若い人たちが認識してきているように思う。多摩ではコミュニティービジネスや地元での起業が最近見られている。
・地元にあるもので、地元の人がそれをよく理解して、買いましょう、育てましょうという意識がないとこれからは駄目だろうと思う。横浜で食事をしたら葉山野菜とか鎌倉野菜など書いてあって何だか悔しい思いをした。横須賀の野菜など、せっかく消費地が近いのでもう少し販路を広げるとか、漁業なども強みなので上手にＰＲして、地方へ流通させることができるはずである。よい方向に転換させるために大きなことをやるのではなくて、積み重ねていきながら道筋を見つけていくことが大事かと思う。
・保育園や病院は、人が増えれば充実してくることなので、何かをやって一度にうまく転がるというものではない。取り組みに対して評価の出ていることをどうやって上手に広げていくかを考えていくことも必要かと思う。
・市民の評価を得るためには、東京や横浜と比較すると薄いという感情を持たれているよ

うだし、日常のレベルでの支援サービスも手厚いという印象が見えてくるとよい。雇用や定住にもつながる。昔ながらのにぎわいが欲しい人は残念ではあるが横浜などに住んでいただければよいが、違う選択をする人たちもいるはずであり、全員に来ていただくのは難しいのでそのような部分を育てていくことが大事になってくるし定住にもつながる。

・産科は産む人が増えないと増えていかない。過疎地の病院の話をすると、病院がなくなってから初めて反対運動をする、それで自分はどこに掛かっているかというと東京の病院に掛かっている。なくなって欲しくなければ自分も病院を使わなければいけないし、買い物にしても、吉祥寺はよいが全く同じものだったら横須賀で買わなければ横須賀で欲しい物を売っている店はなくなってしまう。そこを市民の方が理解していただくような取り組みがないと難しい。横須賀にお店が欲しいのであれば、そこで買いましょうという運動も一つである。横須賀市が発展するためには、買えないものは仕方ないけれど買えるものは横須賀で買いましょう、そうしないとなくなっちゃいますよと言っていくことも必要だと思う。

・コンパクトシティーとしては最先端になる可能性がある。広がって住むのではなく便利なところに集まって住みましょうという方向に展開できればよいと思う。

（細野委員長）

・ライフスタイルをどのように切り替えるかという根源的な問題である。

（松本委員長職務代理者）

・そこを上手に変えられるとよいのかなと思う。

（川名委員）

・出産に関しては、困ったという話は聞いていない。というのも、里帰り出産があり、他から移ってきている人が産んでくれている。また、婦人科は開業するが産科は開業されないという問題は、全国的に訴訟問題などで難しい状況にある。助産院はやはり認知度が低く広がっていない。閉じてしまった産科に新しい産科を呼んでくるのも一つの方法である。一概には言えないが、今の人は至れり尽くせりの産科を好むので、産科も差別化できるところをお呼びする必要があるかもしれない。

17:00　閉会

第３回まちづくり評価委員会会議の開催日時・場所を確認して閉会とした。

（以上）